

百里基地における施設整備費予算

年度	事業件名	事業概要	内訳	金額
2014年度	隊舎の改修 整備上の新設	耐震改修 燃料タンクの整備	約3.9億円 約0.8億円	約4.8億円
2015年度	隊舎の改修 給水設備の更新			約1.1億円
2016年度	ボイラー設備の整備		約0.3億円	約0.3億円
2017年度	騒音防止施設の新設等 既設建物（パラシュート乾燥施設）の撤去 基地周囲の法面整備（未然防止のため） 受配電施設の老朽更新 調査工事	新たに配備されるF2用のエンジンテストセル1基 航空機燃料をJ P-4からJ e t A-1に 代えるための燃料施設改修関連	28億円 0.8億円 8億円 8億円 600万円	約38.5億円
2018年度	電子整備場新設 制動傘乾燥塔新設 フライト・シミュレーター施設新設 完成弾薬庫新設 器在庫新設 エンジン整備格納庫改修 武装整備格納庫改修			約28億円
第2次補正	空調設備の改修 ブロック塀の整備		5億円 0.1億円	約5億円
2019年度	格納庫の改修 局舎の改修 庁舎の改修 器材庫の改修 汚水排水設備の整備 空調設備の改修 着陸拘束装置設置のための調査工事費 庁舎新設の調査費	三沢から百里への第3飛行隊移動に対応 三沢から百里への第3飛行隊移動に対応 三沢から百里への第3飛行隊移動に対応	0.35億円 0.2億円 0.1億円 0.2億円 2億円 0.2億円 0.5億円 600万円	約3億円
2020年度	燃料設備の改修	燃種変更に伴う機器の追加	(*)	(*)
第三次補正	空調設備の更新 基本検討	基地のライフライン見直し	6億円 0.8億円	約7億円
2021年度	格納庫の新設（老朽更新）	現在の敷地が狭隘なため別な場所に移設	約9億円	約9億円
補正	庁舎の改修	空調機器の更新	(*)	(*)
2022年度	飛行場灯火の老朽更新 格納庫の建替 着陸拘束装置の新設 庁舎の改修 空調機器の調査工事	移動式ワイヤーを固定式の恒久的な装置に替える	10億円 3億円 (*) (*) (*)	約13億円
第二次補正	消防用設備の更新 調査工事	自動火災報知機の通信線 給水管等の老朽調査		約3億円
2023年度	格納庫の建替 31億円 飛行場灯火の整備 電源改修 空調設備の更新 調査工事	インフラセキュリティ監視システム 滑走路の耐震化・土質調査、基本設計	31億円 (*) (*) (*) (*)	約44億円
補正	電源改修 飛行場灯火の整備 滑走路の液状化調査工事			約1億円
2024年度	格納庫等の整備 空調設備の整備 管路等の整備 諸設備の整備 調査工事 基本検討	アラート待機用 航空機隠ぺい用施設の調査設計 及び分散パッドの設計	約7億円 約7億円 約42億円 (*) (*) (*)	約60億円

(*) 防衛省が「予定価格が類推されることから提示不可」としたものの

北関東防衛局における令和 6 年度予算成立後契約締結を予定している工事及び業務の発注見通しは下記のとおりです。
なお、記載内容は令和 6 年 6 月 2 8 日現在の見通しであるため、内容に追加・変更があった場合、随時、更新します。

【設計(検討含む)】

番号	業務名	場所	期間	業務概要	入札方法等	公告予定	確認申請書 受付期限	開札予定日	備考
3	百里外(6)施設最適化総合設計	百里基地 百里基地八郷無人中継所 霞ヶ浦分屯基地 霞ヶ浦高射教育訓練場	58ヶ月	主な施設 百里基地 建替施設(建替後の施設) ・隊舎新設(4階建 約5,200㎡)、(7階建 約6,800㎡) ・隊庁舎新設(2階建 約2,400㎡) ・食厨新設(2階建 約5,600㎡) ・体育館新設(平屋建 約1,100㎡) ・格納庫新設(平屋建 約4,000㎡)、(平屋建 約1,200㎡)、(平屋建 約2,600㎡)、(平屋建 約3,300㎡)、(平屋建 約4,300㎡)、(平屋建 約2,100㎡) ・整備場新設(2階建 約1,100㎡)、(平屋建 約1,400㎡) ・倉庫新設(2階建 約7,800㎡) ・上記以外の1,000㎡未満の建物 計62棟、計約10,200㎡ 改修施設 ・格納庫改修(平屋建 約3,000㎡)、(平屋建 約1,300㎡)、(平屋建 約4,900㎡)、(3階建 約2,700㎡)、(平屋建 約1,100㎡) ・庁舎改修(3階建 約4,900㎡)、(2階建 約1,100㎡)、(平屋建 約1,600㎡)、(3階建 約1,000㎡)、(3階建 約2,000㎡) ・隊舎改修(6階建 約6,500㎡)、(6階建 約5,400㎡)、(4階建 約4,100㎡)、(4階建 約3,600㎡) ・厚生施設改修(3階建 約3,700㎡) ・医務室改修(2階建 約1,300㎡) ・局舎改修(2階建 約1,000㎡) ・整備場改修(平屋建 約1,300㎡)、(2階建 約1,300㎡) ・車庫改修(2階建 約1,600㎡) ・作業所改修(2階建 約1,800㎡) ・上記以外の1,000㎡未満の建物 計94棟、計約13,100㎡ 仮設一式、建物付帯一式、解体工事一式及び基地内幹線ユーティリティー式に係る総合設計 計画通知申請手続き一式及び交渉等技術資料作成業務一式 上記は別途発注のECI方式による技術提案対象業務 注)各施設の面積は延床面積 百里基地八郷無人中継所 局舎(RC造 2階建 約100m2)改修に係る建築及び設備設計 霞ヶ浦分屯基地 隊庁舎(RC造 4階建 約2, 200m2)ほか2棟新設に係る建築、設備及び土木設計 仮設庁舎(S造 3階建 約1, 800m2)新設及び撤去に係る建築、設備及び土木設計 機械室(RC造 平屋建 約70m2)ほか2棟改修に係る建築及び設備設計 隊庁舎(RC造 2階建 約1, 800m2)ほか2棟解体に係る建築、設備及び土木設計 霞ヶ浦高射教育訓練場 整備場(平屋建 約500m2)新設に係る建築、設備及び土木設計 庁舎(RC造 平屋建 約800m2)ほか8棟改修に係る建築及び設備設計 整備場(S造 平屋建 約500m2)解体に係る建築、設備及び土木設計	公募型プロポーザル方式 (単体又はJV)	2月19日	3月5日	5月22日	事業規模:30億円以上 【単体又は共同 体の代表者】 「公共工事实績」 【共同体の代表 者以外の構成 員】 「公共工事实績」 技術提案対象 業務量は各年度 同程度として実 施する

- 注) 1 手続きが完了した案件は網掛けとしています。
- 2 変更・追加した箇所は赤字としています。
- 3 E C I 方式については現時点での計画であり、今後、変更する可能性があります。

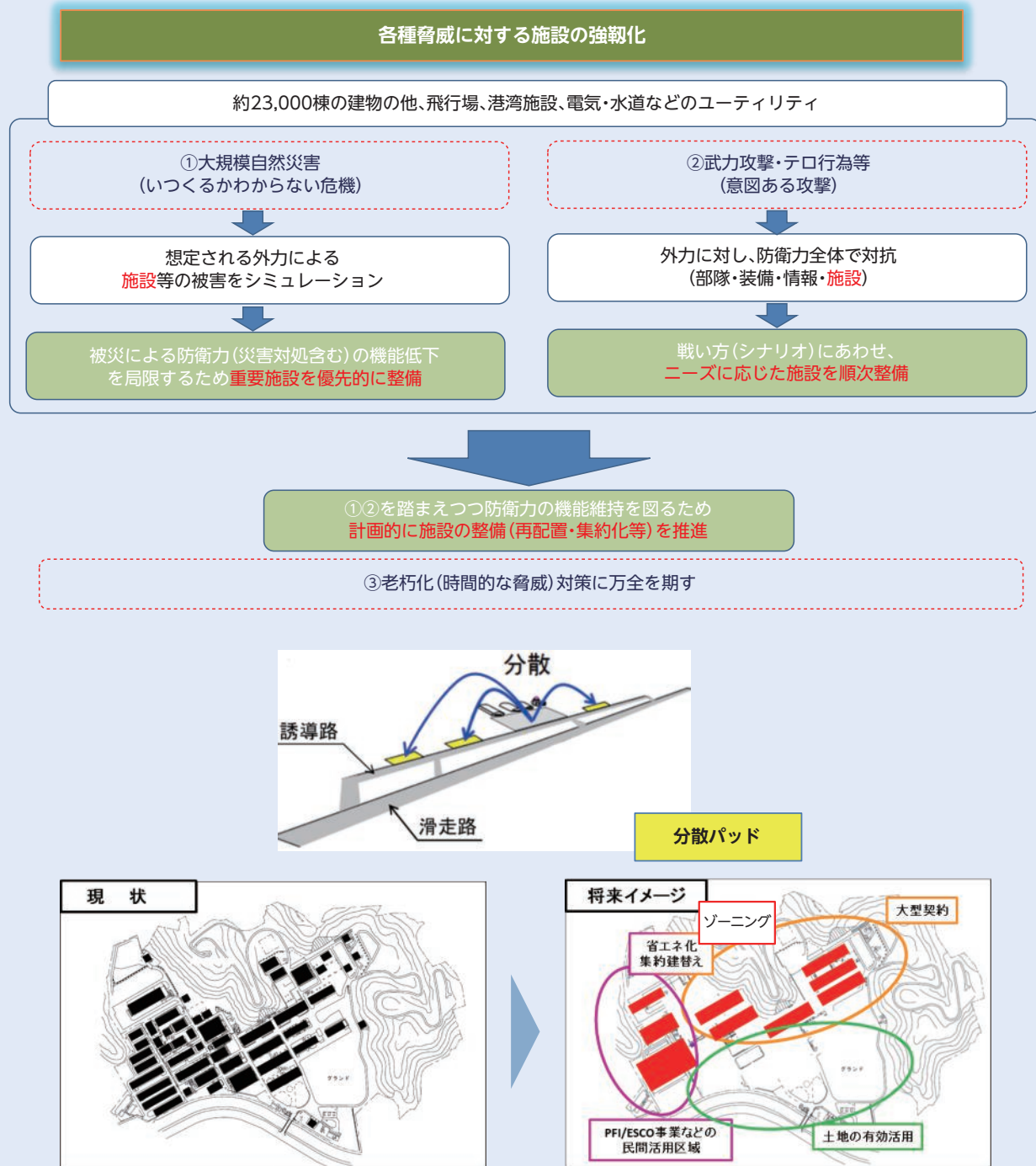
北関東防衛局における令和6年度予算成立後契約締結を予定している工事及び業務の発注見通しは下記のとおりです。
なお、記載内容は令和6年6月28日現在の見通しであるため、内容に追加・変更があった場合、随時、更新します。

【技術協力業務等(技術提案・交渉方式)】

番号	業務名	場所	期間	業務概要	入札方法等	公告予定	確認申請書 受付期限	開札予定日	備考
3	百里(6)施設最適化総合設計に係る技術協力業務	百里基地	55ヶ月	百里(6)施設最適化総合設計に対し施工者の観点から技術提案を行うもの 主な施設 百里基地 建替施設(建替後の施設) ・隊舎新設(4階建 約5,200㎡)、(7階建 約6,800㎡) ・隊庁舎新設(2階建 約2,400㎡) ・食厨新設(2階建 約5,600㎡) ・体育館新設(平屋建 約1,100㎡) ・格納庫新設(平屋建 約4,000㎡)、(平屋建 約1,200㎡)、(平屋建 約2,600㎡)、(平屋建 約3,300㎡)、(平屋建 約4,300㎡)、(平屋建 約2,100㎡) ・整備場新設(2階建 約1,100㎡)、(平屋建 約1,400㎡) ・倉庫新設(2階建 約7,800㎡) ・上記以外の1,000㎡未満の建物 計62棟、計約10,200㎡ 改修施設 ・格納庫改修(平屋建 約3,000㎡)、(平屋建 約1,300㎡)、(平屋建 約4,900㎡)、(3階建 約2,700㎡)、(平屋建 約1,100㎡) ・庁舎改修(3階建 約4,900㎡)、(2階建 約1,100㎡)、(平屋建 約1,600㎡)、(3階建 約1,000㎡)、(3階建 約2,000㎡) ・隊舎改修(6階建 約6,500㎡)、(6階建 約5,400㎡)、(4階建 約4,100㎡)、(4階建 約3,600㎡) ・厚生施設改修(3階建 約3,700㎡) ・医務室改修(2階建 約1,300㎡) ・局舎改修(2階建 約1,000㎡) ・整備場改修(平屋建 約1,300㎡)、(2階建 約1,300㎡) ・車庫改修(2階建 約1,600㎡) ・作業所改修(2階建 約1,800㎡) ・上記以外の1,000㎡未満の建物 計94棟、計約13,100㎡ 仮設一式、建物付帯一式、解体工事一式及び基地内幹線ユーティリティー式 注)令和6年度に工事契約を予定している施設はない 注2)各施設の面積は延床面積	公募型プロポーザル方式 (単体又はJV。なお、JVの構成員数は7社までとする)	4月1日	4月23日	7月26日	事業期間:10年程度 対象工事規模:300億円以上500億円未満 業務参考額:6千万円程度 公共工事实績 技術提案対象 単体又はJVの代表企業は、建築一式工事のA(1,200点以上)の格付かつ建築業務C以上の格付 代表者以外の構成員は、建築一式工事又は土木一式工事のB以上、もしくは、電気工事、管工事または電気通信工事のAのいずれかの格付 但し、代表者以外の構成員に建築一式工事又は土木一式工事のいずれかのAの格付を有する者を1社以上含むこと

注) 1 手続きが完了した案件は網掛けとしています。
2 変更・追加した箇所は赤字としています。
3 E C I 方式については現時点での計画であり、今後、変更する可能性があります。

図表Ⅲ-1-6-3 施設の抗たん性向上策（イメージ）



令和5年8月
防 衛 省

航空自衛隊百里基地に関する 令和6年度概算要求の主要事業について

【航空機隠ぺい用施設の整備】

屋外駐機中の航空機において、上空からの偵察を受ける蓋然性が高まっており、稼動状況等が識別される可能性があります。そのため、航空機の稼動状況等を隠ぺいするための施設を整備することとしています。

令和6年度概算要求においては、航空機隠ぺい用施設の整備に必要な調査・設計に係る経費として約0.4億円を計上しています。



F-2戦闘機のスタンド・オフ・ミサイル搭載能力の向上（概要）

空域における警戒監視・管制を有効に行うため、増強された警戒航空部隊から構成される航空警戒管制部隊を保持する。

イ 戦闘機とその支援機能が一体となって我が国の防空等を総合的な態勢で行うため、質・量ともに大幅に洗練・増強された戦闘機部隊を保持する。また、戦闘機部隊等が我が国周辺空域等で高烈度化する各種航空作戦において粘り強く戦闘を継続するため、増強された空中給油・輸送部隊及び航空救難部隊を保持する。

ウ 部隊等の機動展開、国際平和協力活動等を効果的に実施するため、増強された航空輸送部隊を保持する。

エ 重要地域の防空を実施する上で陸上自衛隊の地对空誘導弾部隊と連携するとともに、弾道ミサイル攻撃から我が国を多層的に防護する際に終末段階で対処する機能を備え、多様化・複雑化する経空脅威に対応するため、増強された高射部隊を保持する。

オ 宇宙空間の安定的利用を確保するため、宇宙領域把握（SDA）能力を増強した宇宙領域専門部隊を保持する。

カ 我が国から比較的離れた地域での情報収集や事態が緊迫した際の空中での常時継続的な監視を実施するため、無人機部隊を保持する。

(2) 基幹部隊の見直し等

ア 我が国の航空戦力の質・量を更に洗練・強化するため、近代化改修に適さない戦闘機（F-15）について、戦闘機（F-35A及びF-35B）への代替ペースを加速させる。また、近代化改修を行った戦闘機（F-15）について、電子戦能力の向上、スタンド・オフ・ミサイルの搭載、搭載ミサイル数の増加等の能力向上を引き続き行う。さらに、戦闘機（F-2）については、スタンド・オフ防衛能力の強化の観点から、12 式地对艦誘導弾能力向上型の搭載能力等を付与するため、計 2 個飛行隊分の能力向上事業を推進する。加えて、航空戦力の量的強化を更に進めるため、2027 年度までに必要な検討を実施し、必要な措置を講じる。この際、無人機（UAV）の活用可能性について調査を行う。

イ 次期戦闘機について、戦闘機（F-2）の退役が見込まれる 2035 年度までに、将来にわたって航空優勢を確保・維持することが可能な戦闘機を配備できるよう、改修の自由や同盟国との相互運用性を確保しつつ、英国及びイタリアと次期戦闘機の共同開発を推進する。この際、戦闘機そのものに加え、無人機（UAV）等を含むシステムについても、国際協力を視野に開発に取り組む。

ウ さらに、戦闘機（F-35）や次期戦闘機といった最先端の戦闘機の

IV 主要事項

1 2式地对艦誘導弾能力向上型の開発・取得等

- 1 2式地对艦誘導弾能力向上型(地発型・艦発型・空発型)の開発(1 7 6 億円)
1 2式地对艦誘導弾能力向上型(地発型・艦発型・空発型)について開発を継続
(発射試験等に係る経費を計上)。
- 1 2式地对艦誘導弾能力向上型(地発型・艦発型・空発型)等の
製造態勢の拡充(4 8 0 億円)
- 1 2式地对艦誘導弾能力向上型(地発型)の取得(9 6 1 億円)
- 1 2式地对艦誘導弾能力向上型(地発型)の地上装置等の取得(1 3 0 億円)
- 1 2式地对艦誘導弾能力向上型(艦発型)搭載のための器材調達(6 億円)

1 2式地对艦誘導弾能力向上型
(イメージ)**島嶼防衛用高速滑空弾等の開発**

- 島嶼防衛用高速滑空弾の開発(1 2 7 億円)
高速滑空し、地上目標に命中する高速滑空弾の開発を継続(発射試験等に係る経費を計上)。
- 島嶼防衛用高速滑空弾(能力向上型)の開発(8 4 0 億円)
早期装備型から射程を延伸する能力向上型の開発を継続。

島嶼防衛用高速滑空弾
(能力向上型)
(イメージ)**極超音速誘導弾の開発・製造態勢の拡充等**

- 極超音速誘導弾の開発(7 2 5 億円)
極超音速(音速の5倍以上)の速度域で飛行することにより迎撃を
困難にする極超音速誘導弾について、要素技術の研究成果を活用し、
誘導弾システムとして成立させるための運用実証型研究を推進。
- 極超音速誘導弾の製造態勢の拡充等(8 6 億円)

極超音速誘導弾
(イメージ)**その他のスタンド・オフ・ミサイル等**

- 新地对艦・地对地精密誘導弾の開発(3 2 3 億円)
長距離飛しょう性能、精密誘導性能など対艦・対地对処能力を
向上した新たなスタンド・オフ・ミサイルの開発に着手。
1 2式地对艦誘導弾能力向上型の地上装置を活用可能。
- J S M(3 5 2 億円)、J A S S M(5 1 億円)の取得
※ J S M: Joint Strike Missile (F-35Aに搭載)
J A S S M: Joint Air-to-Surface Stand-Off Missile
(F-15能力向上機に搭載)
- F-35A能力向上改修(J S M搭載)(2 9 機: 2 9 4 億円)
- F-15能力向上改修(J A S S M搭載)(1 3 3 億円)
- F-2能力向上改修(1 2式地对艦誘導弾能力向上型(空発型)搭載)(8 機: 1 3 1 億円)
- トマホーク発射機能の艦艇への付加(2 億円)
令和7年度のトマホーク納入に向け艦艇への機能を付加。



JASSM(イメージ)

JSMを搭載したF-35A
(イメージ)

トマホーク発射機能(イメージ)12

指揮統制

- 一元的な指揮活動のための機能整備(9 8 億円)
スタンド・オフ・ミサイルの運用を中核として一元的な指揮
活動を円滑に実施するため、統合指揮ソフトウェアを整備。